

化学物質のヒト健康への影響解明に取り組む研究室

こんな問題に取り組んでいます

ダイオキシン、PCB、環境ホルモン、重金属など、環境中に存在する化学物質をわれわれは日々食物や空気、水を通して摂取しています。こうした化学物質をどれだけ摂取し、それによってわれわれの健康に何が起きているか、の解明に取り組んでいます。

こんなことがわかってきました

妊婦さんが日常生活のなかで食べ物や化粧品などから取り込んでいる化学物質によって生まれてくる子どもの体重等に影響があることがわかってきました。また、部屋の中のハウスダストを経て取り込まれる化学物質にも懸念があります。

研究の成果はこんな分野に活かされます

環境からの有害化学物質の摂取を減らすために、国や自治体など行政がすべきこと、ライフスタイルの修正などわれわれ自身にできること、などを提言することにより、われわれの健康維持に役立てていくことができます。

関連展示: 環境健康システム学実験室(425)
連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻
吉永淳<junyosh@k.u-tokyo.ac.jp>

